



■環境系■（ウェルネス）

# オフィスの知的生産性・環境満足度に関する研究

## －オフィス等におけるウェルネス設計提案手法の研究－

Research on Intellectual Productivity and Environmental Satisfaction in Innovation Hubs  
- Methods for Wellness Design in Offices -

矢野香里\* 稲留康一\* 作野祐子\*\* 小川洋行\*\*\* 神長侑磨\*\*\*\*  
Kaori Yano, Koichi Inadome, Yuko Sakuno, Yoko Ogawa, Yuma Jincho

### 研究の目的

近年、オフィスワーカーの快適性や心理的健康を考えたウェルネスオフィスは、オフィス環境への満足度向上だけではなく、知的生産性や従業員のエンゲージメントの向上に寄与すると注目されている。2023年10月に、大学や企業との技術交流や連携などによるイノベーション推進を目的とした拠点として、クロスイノベーションセンター（以降、クロスアイ）を開設した。この拠点整備では執務者のウェルビーイングの実現に貢献する空間づくりも目指した。クロスアイの室内環境が執務者のウェルネスや満足度、知的生産性に与える影響を把握するため、アンケートによる調査を実施した。

### 研究の概要

ウェルネスの評価方法として、執務者が主観的に環境を評価するCASBEE オフィス健康チェックリスト（以降、OHC）が開発されており、スコアが高いほど執務者の健康、快適性、知的生産性が高いオフィスであるとされている。クロスアイへの移転直後および移転1年後に執務者を対象に、CASBEE-OHC 調査を実施した。CASBEE-OHC スコアの分布を図-1に示す。いずれも既往研究の平均点を大きく上回る結果となり、執務環境がウェルネスに効果的であることがわかった。

既往研究のCASBEE ウェルネスオフィス（以降、WO）スコアとCASBEE-OHC スコアの関係を図-2に示す。この図に当社技術研究所管理棟（CASBEE-WO: Aランク）およびクロスアイのスコアをプロットした。どちらも既往調査におけるサンプルの近似式に近い値となり、CASBEE-WO とCASBEE-OHC のスコアには高い相関がみられた。CASBEE-WO のスコアが高い場合、健康、快適性、知的生産性を促進するオフィスであることを示唆している。

執務環境の総合満足度と知的生産活動の満足度を図-3に示す。いずれも移転直後、1年後ともに満足側の回答が8割程度であり高い満足度を示している。

移転直後の自由記述から、「会議スペースの不足」やフリーアドレス導入による「グループ作業のしづらさ」を指摘する意見があった。そこで任意のグループが利用できるグループアドレスエリアを設定し、これらの指摘を解消できるか検証した。作業のしやすさについては周囲のサポートを必要とする20歳代から高い評価が得られた（図-4）。入社間もないサポートを必要とする年代では、チームで働くグループアドレスが有効に機能していることを示唆している。

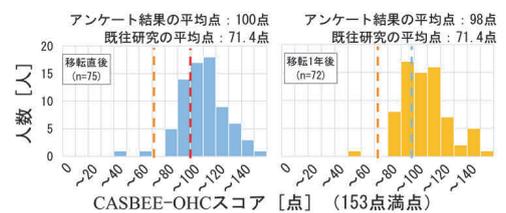


図-1 CASBEE-OHC スコア分布

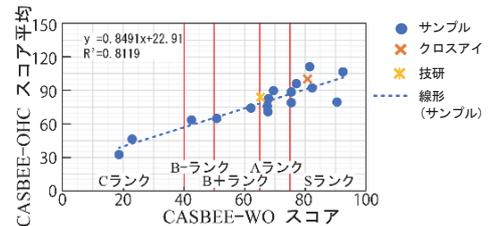


図-2 CASBEE-WO、OHC 相関図

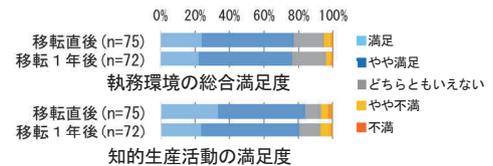


図-3 執務者の総合満足度

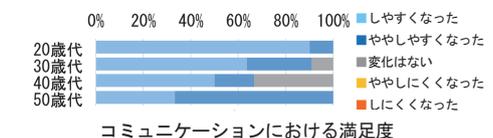


図-4 年代別グループアドレス作業しやすさ

### 研究の成果

クロスアイの室内環境についてのアンケート結果より、以下の知見が得られた。

- i. 客観評価であるCASBEE-WOのスコアと、主観的評価であるCASBEE-OHCのスコアの相関関係が既往研究と同等の傾向であり、CASBEE-WOのスコアが高い場合、健康、快適性、知的生産性を促進するオフィスであることを示唆している
- ii. 執務者の室内環境に対する満足度は75%を超えており、良好なオフィス環境を構築できた
- iii. 「グループアドレス」の導入により、フリーアドレス導入時の課題とされるコミュニケーションにおいて満足側の評価が得られ、特に、周囲のサポートを必要とする若年層にとっては効果的であることが示唆された

\*技術本部技術戦略部 \*\*西日本支社建築設計部 \*\*\*建築本部 \*\*\*\*技術本部技術研究所新領域研究グループ